

子どものスマホ 家庭でルールを



多機能携帯電話として急速に普及するスマートフォン（スマホ）は、子どもたちの世界にも広がっている。専門家は「スマホは携帯電話というより、いつでもどこでも気軽に使えるパソコン。有害サイトにつながり、犯罪に巻き込まれる危険性をはらんでいる」とし、保護者らに適切な対応を求めている。

ベネッセ教育情報サイト（東京が8月、保護者に実施したアンケート）2614人（回答）によると、子どもに持たせられた携帯電話のうち、スマホの割合は高校生31%、中学生16%、小学生4%。新規購入や買い替え時、高校生の8割



松川由美代表



桑崎剛教頭

自宅は居間のみ、状況チェック…

危険教えトラブル回避へ

近くがスマホを選んでいた。SNSでの出会い

スマホの特徴は、さまざまなアプリケーションソフト（アプリ）の追加で用途が広がることだ。中学生がよく利用するのは、フェイスブックなどインターネットのSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）と言われる会員制交流サイトで、他人と遊べるソーシャルゲームが人気を集めている。

しかし、「SNSで多数の人と知り合い、犯罪に巻き込まれるケースがある」と、スマホ問題に詳しいモバイルネ

スマートフォンに潜む危険

- SNSで多数の人と知り合い、犯罪に巻き込まれるケースがある
- 有害サイトに接続できないようにするフィルタリングが未整備
- ソーシャルゲームなどにのめり込む「ネット依存症」

※モバイルネットワーク研究所監修

子どもたちの間にも急速に普及しているスマートフォン

ットワーク研究所（熊本市東区）の松川由美代表（42）。ゲームや共通の趣味を通して出会うために警戒心が薄れたり、大人が中高生になりすまして接触したりする危うさが付きまとう。

18歳未満が利用する携帯電話には、有害サイトに接続できないようにするフィルタリングが法律で義務付けられているが、スマホで使う「WiFi」 という通信環境では未整備。ソーシャルゲームにのめり込む「ネット依存症」も増えているという。

松川代表は「かつて、子どもが犯罪に巻き込まれるのは出会い系サイトが多かったが、今はSNS」と指摘。「特徴を理解していない保護者が

多い」とした上で、「子どもに安易に与えるのは危険」と警鐘を鳴らす。

子どもを危険から守るにはどうしたらいいか。「安心ネットづくり促進協議会」特別会員で、錦ヶ丘中（熊本市東区）の桑崎剛教頭（58）は「家庭のルールづくり」を提案する。欲しがるから与えるのではなく、なぜスマホが必要で、どう使い、どう管理するかを親子でしっかり話し合うことが大切だという。

賢いユーザーに

具体的なルールとして、「自宅では居間のみで使う」「食事中や深夜は使わない」「知らない人からのメールは保護者に報告する」「保護者が使用状況をチェックできるようにする」「アプリをダウンロードをするときは保護者の許可を得る」などが考えられる。

県も対策を検討中。スマホが有害サイトに接続可能な点などを踏まえ、県少年保護育成条例改正の柱として、販売契約時のフィルタリングの説明強化を盛り込む方針だ。

「将来、子どもたちはインターネットを活用しながら生活する。賢いユーザーに育てるのは、大人の責任だ」と桑崎教頭。スマホの危険性を学ぶ機会を与え、ネット上のトラブルを回避できるコミュニケーション能力を身に付けさせる必要性を訴える。

松川代表は「危険から遠ざければ解決するわけではない。自発的にコントロールできる子どもに育てることが大切だ」と強調する。

（久間孝志）